

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 5 月 16 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/16 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 1.9 m ³ /h	23.2	106.6 kPa abs	A系: 0.07 vol%
		給水系: 約 2.4 m ³ /h			B系: 0.07 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.6 m ³ /h	36.0	6.12 kPa g	A系: 0.06 vol%
		給水系: 約 2.0 m ³ /h			B系: 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 3.5 m ³ /h	34.8	0.26 kPa g	A系: 0.13 Vol%
		給水系: 約 2.0 m ³ /h			B系: 0.12 vol%

*: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/16 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	18.5
2号機	循環冷却システム	運転中	19.9
3号機	循環冷却システム	運転中	17.6
4号機	循環冷却システム	運転中	27

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	5/15 17:20 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/16 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/5/9 9:44 ~ 6号機補機冷却系熱交換器(A)出入口弁点検に伴い、使用済燃料プール冷却系を停止(停止時プール水温度:15.8)し、残留熱除去系による原子炉停止時冷却運転(原子炉側の冷却)と非常時熱負荷運転(使用済燃料プール側の冷却)を交互に切り替えて冷却する運用を開始。
- ・H25/5/14 ~ 2号機サプレッションチェンバ内へ窒素ガスを5Nm³/hで封入実施。本作業は、5/17までの各日日中6時間程度を予定。
なお、サプレッションチェンバ内圧力がドライウェル圧力に対して低く、窒素ガス封入量5Nm³/hでは少ない状況であることから、5/16、17の窒素ガス封入量は10Nm³/hに変更。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

< 拡散防止対策 >

5/16 地下貯水槽 No.1, 2の漏えい検知孔内に漏えいした水および地下貯水槽 No.2 のドレン孔に漏えいした水をノッチタンクへ移送する処置を実施。

地下貯水槽 No.3の漏えい検知孔内に漏えいした水を当該貯水槽へ戻す処置を実施。

< サンプルング実績 >

5/15 地下貯水槽 No.1 ~ 7のドレン孔水(14 箇所)、地下貯水槽 No.1 ~ 4, 6の漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)、地下貯水槽観測孔(22 箇所)についてサンプルングを実施。そのうち、地下貯水槽 No.1の漏えい検知孔水(北東側)の全ベータ値が、前回(5/14)と比較して約3倍となっているが、この値は過去の測定結果の範囲内であり、その外側のドレン孔(北東側)での濃度上昇はない。その他については前回(5/14)実施したサンプルングの分析結果と比較して大きな変動はない。

また、5/8に採取した、地下貯水槽 No.1 ~ 4, 6のドレン孔水(10 箇所)および漏えい検知孔水(10 箇所のうち2箇所は試料採取不可)について、トリチウムの分析を実施した結果、前回(5/1)の分析結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上